

8月1日（水） 哲学 9：45～12：00

奈良女子大学文学部人間科学科教授 西村 拓生 先生

『国を思うこと』と『世界を思うこと』—教育哲学者・木村素衛の生きた時代、私たちの生きる時代—

小県教育委員会にある、信州に縁の深い戦前・戦中の教育哲学者・木村素衛の碑文の言葉を手がかりに、今、子どもたちと向き合う私たちの「表現＝形成」の営みが、どのように「世界」とつながるのかを考えてみたいと思います。

【講師紹介】 1962年、上田市（旧丸子町）生まれ。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程中途退学。奈良女子大学文学部教授。美や芸術と人間形成の関係について思想的・原理的に考えるのが研究テーマです。

【著 書】『子どもの表現活動と保育者の役割』（明治図書 1998）『教育哲学の現場——物語りの此岸から』（東京大学出版会 2013）『「人間と教育」を語り直す——教育研究へのいざない』（ミネルヴァ書房 2012 共著）等